

保育闘争委員会ニュース 公的保育を守り拡充させよう

2012年
4月27(金)
第69号

発行 = 東京自治労連保育闘争委員会 Tel.03-5940-7951 Fax.03-5940-7957 honbu@tokyo-jichiroren.org

「新システム」反対で文京区議会会派要請 自民幹事長「反対の立場。協力する」

文京区職労に対策委員会が設置されたもとの、保育園分会として初めて区議会の会派まわりを行いました。

自民党への要請では、白石幹事長含め6人で対応してくれました。昨年8月30日に自民党本部で開催された『子どものための保育』を守る全国研修会での谷垣自民党総裁の断固反対の決意表明への感謝と、成澤文京区長の面積基準緩和反対に触れつつ協力要請。幹事長は「私たちも反対の立場。待機児童解消も重要です。言われた趣旨は理解しています。どのような協力できるか分かりませんが、署名とチラシを少し置いていってください」と表明。組合側から「新システム」は待機児童解消にもならないし、保護者には何時間の保育を認めるだけとなるとの再度の要請に、「よく分かりました。出来るだけ協力します」と語ってくれました。

公明党への要請では、公明党副代表の東氏の発言(11月14日の集会)を冒頭に紹介し、特に「公的制度を守らないといけない」という発言に着目して、心強く思っていることを伝えると「待機児童解消では保育園を増やすことを自分達もやってきた。企業が参入することで規制がかけられないのは問題だと思う」などの発言の後、「ゆっくり考えさせてほしい」という返事でした。党本部の紹介をしてとても良かったとの印象でした。

「市民の広場・文京」への要請では、いつも保育の話をよく聞いてくれ、今回も「新システム」のことをよく聞いてくれました。関心を持っている議員団の方々でも「新システム」の内容は深くは知らないという印象でした。署名については考えるとのことでした。

一人会派の女性議員は「厚労省、内閣府、文科省が合同で行う学習会にも参加してきた。内閣府一本にまとまると聞いたがこのことはとてもいいことだと思う。幼稚園と保育園にそれほどの違いがないのに教育に一本化されていないのはおかしい。自分は『新システム』に反対はしていない。問題がある事は分かるが、それは国会の中でもんでもらえばよいと思っている」と考えを表明。幼保一体行政にならないことを話し、国会でも一括で審議される可能性があると話してきましたが、反対表明にはなりませんでした。

共産党はすでに署名の取り組みも行われていましたが、前回の署名との整合性を聞かれました。前回の署名が審議未了のため、新しく取り直しているのも、前回行った方でも大丈夫であることを伝え、積極的に取り組んでほしいことお願いしました。

日を改めて、区民クラブへの要請では、幹事長と厚生委員の2人で話をきいてくれました。「新システム」に反対である理由を話すと、「対案を持っているのか」という質問が出され、私たちは公的保育制度を守り、最低基準の引き上げなどを考えていることを話す。「民間企業の参入に対しては、すべてを公立で賄うことはできないので民間の力も借りなければいけないが、第三機関による監査体制が必要と思っている。説明を聞いてとても勉強になった」と厚生委員の方の感想でした。「自分たちも公の責任は果たしていきたい。公立保育園を全て民営化するなどの考えは持っていない。子どものことであなたたちとそう意見の違いはないと思う」などの発言がありました。署名については考えさせてほしいとのことでした。よく説明を聞いてくれました。区民クラブへ初めて出向いたということもあり、今後も組合と意見交換をしあいたいという希望も出されました。

初めての区議会会派まわりで、緊張もありましたが、行ってみると「新システム」についてあまりよく分かっていないことや、話をすればよく聞いてくれることがわかりました。これからも、「新システム」以外のことでもこちらから出向いていくことの大切さを知ることができました。

世田谷区職労保育園分会

5・13 大集会参加すでに 200 人超。 5月は学び、行動する月

「子ども・子育て新システム」を含む「社会保障・税一体改革」の関連法案を一括審議する「特別委員会」の設置が決定された中、新システムとの闘いは新たな段階になっています。

世田谷区職労保育園分会では、学習しつつ、広く宣伝・署名行動をしていくことを改めて確認しました。この間、繰り返し学習を続けていますが、1000名の分会員がこの問題を理解し、行動を起こすためにはまだまだ学習が不足しています。しかし、学習を終えてからの行動では遅いので、学習しつつ外に出る事を心がけています。

3月に計画していた駅頭宣伝が雨で流れたため、4月22日、3駅で100名余りが参加、署名宣伝行動を行ないました。風車を片手に通行する人たちに元気に声をかけ行動した結果、3駅で664筆を集めることができました。引き続き5・6月も駅頭宣伝を行なっていきます。保育園門前宣伝も継続して行なっていますが、今まで役員が必ずついて行なってきたのを、今回からは分会員のみで行なうことにしました。この行動のために、三役が講師になり3ヶ所でミニ学習会を開催しました。5月中に全園の門前で宣伝を行ないます。また、園周辺の全戸配布も30000枚行なう予定です。公的保育を守る世田谷実行委員会で作成した「新システムに対する国への意見書を求める陳情書」の審議が5月の区議会委員会で行なわれます。これを期に今では区立保育園より多くなった民間保育園への訪問も予定しています。

これらの行動の山場となる5・13の集会は、明治公園をいっぱいにし、マスコミが報道することで世論を動かす力になる大変重要な集会です。東京自治労連の目標1200名を受けて、東京最大の世田谷が集会成功に寄与するため、目標を350名として、4月27日現在、200名を越える参加を確認しています。引き続き、この集会の意義を訴え、目標に近づける努力をしていきたいと思えます。翌14日の国会議員要請行動には退職者も含め呼びかけを広げています。

世田谷では「保育施設再整備方針」が出され、新たな民営化の計画が進んでいます。保育課の中に「新システム対応」の部署ができ、民営化と新システムが連動して動いていくことが明らかです。区職労の民営化反対闘争本部で「再整備方針」に対する区職労見解（案）を発表し、組合員からの意見を求めているところです。5月はメーデー、5・13大集会、門前宣伝、全戸配布、駅頭宣伝の他、200名規模の分会大学習会（講師 猪熊弘子さん、池田香代子さん）東京集会などたくさんの取組が計画されています。日々忙しい保育園ですが、ひとり1行動を呼びかけ、学び、行動する月にしたいと思っています。

リレー大宣伝行動スタート

4月14日（土）新宿駅西口、小田急デパート前にて『毎日どこかで訴えよう！リレー大宣伝行動』スタート宣伝を行ないました。あいにくの雨となってしまいましたが、福祉保育労東京地本・中央本部、東京自治労連からの参加があり、総勢26名で賑やかに宣伝が出来ました。

民間、公立の参加者、保育園に預けている保護者など約10名が次々に新システムに反対する現場の状況を訴えました。のぼりや横断幕をみて足を止めて署名をしてくださる方、チラシを受け取り話しを聞いてくれる方など反応がとても良かったです。署名は50筆集まりました。

